

# Asia Indicators

発表日: 2021年8月27日(金)

## 台湾、幅広い経済指標で行動制限の影響一巡 (Asia Weekly(8/20~8/27))

～マレーシアの物価や貿易統計に感染再拡大の影響が顕在化～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522)

### ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
8/20(金)	(台湾)7月輸出受注(前年比)	+21.4%	+20.85%	+31.1%
8/23(月)	(タイ)7月輸出(前年比)	+20.27%	+19.7%	+43.82%
	7月輸入(前年比)	+45.95%	+43.0%	+53.75%
	(台湾)7月鉱工業生産(前年比)	+13.93%	--	+18.00%
	7月失業率(季調済)	4.36%	--	4.76%
8/25(水)	(マレーシア)7月消費者物価(前年比)	+2.2%	+2.9%	+3.4%
8/26(木)	(韓国)金融政策委員会(政策金利)	0.75%	0.75%	0.50%
	(香港)7月輸出(前年比)	+26.9%	--	+33.0%
	7月輸入(前年比)	+26.1%	--	+31.9%
8/27(金)	(マレーシア)7月輸出(前年比)	+5.0%	+9.7%	+27.2%
	7月輸入(前年比)	+24.0%	+19.4%	+32.1%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

### [台湾]～感染再拡大による行動制限再強化の影響が一巡するなか、外需を取り巻く状況は堅調な推移が続く～

20日に発表された7月の輸出受注額は前年同月比+21.4%となり、前月(同+31.1%)から伸びが鈍化した。前月比も▲0.36%と前月(同+1.16%)から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は引き続き拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。財別では、世界的なIT関連需要の旺盛さを反映して主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、電気機械関連などを中心に堅調な動きが続いているほか、化学製品関連の受注の旺盛な動きも全体を下支えしている。国・地域別では、変異株による新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の感染拡大の中心地となっているASEAN向けのほか、最大の輸出相手である中国本土向けに頭打ちの動きがみられる一方、日本やEU、米国など先進国向けの堅調さが下支えする動きがみられる。

23日に発表された7月の鉱工業生産は前年同月比+13.93%となり、前月(同+18.00%)から伸びが鈍化した。前月比も▲1.65%と前月(同+2.26%)から3ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きに一服感が出ているものの、中期的な基調は引き続き拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。分野別では、鉱業部門の生産は堅調な動きをみせる一方、底入れの動きをみせてきた製造業の生産に一服感が出たことが全体の重石になっている。製造業のなかでは、液晶関連や電気機械関連、自動車などの輸送用機器関連などで堅調な動きが続いている一方、主力の輸出財である半導体の生産に一服感が出

ているほか、医薬品関連の生産鈍化の動きが生産全体の重石になっている。

また、同日に発表された7月の失業率（季調済）は4.36%となり、前月（4.76%）から0.40pt低下して3ヶ月ぶりに改善した。失業者数は前月比▲4.7万人と前月（同+7.1万人）から3ヶ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も拡大傾向で推移するもペースは鈍化するなど頭打ちする動きがみられる。新卒者で減少の動きが続いている上、既卒者についても拡大ペースが鈍化するなど頭打ちしているほか、企業の廃業などに伴う失業者数も拡大ペースが鈍化しており、新型コロナウイルスの感染再拡大を受けた行動制限の再強化による悪影響が一巡している様子が見えてくる。雇用者数も前月比+5.3万人と前月（同▲10.2万人）から3ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も減少傾向で推移するもペースは鈍化するなど底打ちの兆しがうかがえる。足下の生産活動の堅調さを反映して製造業の雇用に底打ちの動きがみられるほか、サービス業では観光関連や教育関連などを中心に厳しい状況が続く一方、小売・卸売関連などの改善の動きが雇用環境を下支えしている。雇用の底打ち期待を反映して労働力人口は前月比+0.6万人と前月（同▲3.1万人）から3ヶ月ぶりの拡大に転じるなど底打ちしていることを受けて、労働参加率も58.88%と前月（58.84%）から+0.04pt上昇するなど、緩やかながら質的にも雇用環境が改善している様子が見えてくる。

図1 TW 輸出受注の推移

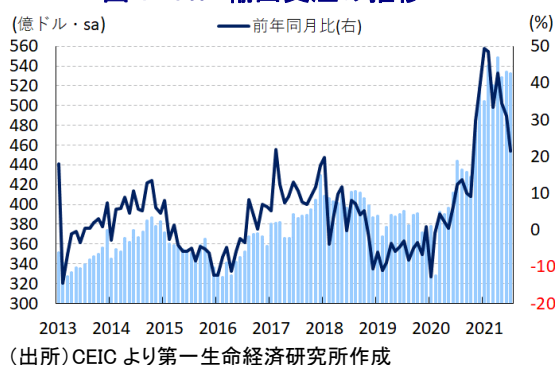
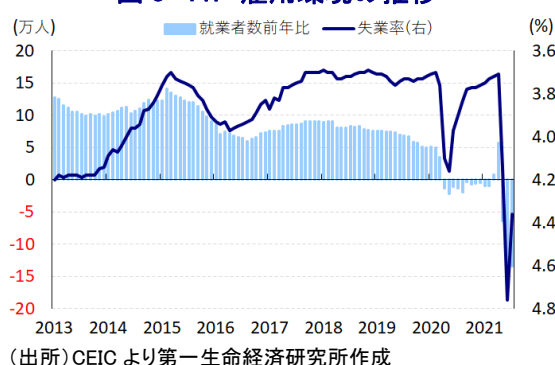


図2 TW 鉱工業生産の推移



図3 TW 雇用環境の推移



### [マレーシア]～感染再拡大による行動制限が物価の重石となるなか、輸出入にも下押し圧力が掛かる展開～

25日に発表された7月の消費者物価は前年同月比+2.2%となり、前月（同+3.4%）から鈍化して4ヶ月ぶりの伸びとなった。前月比も▲0.57%と前月（同+0.08%）から8ヶ月ぶりの下落に転じており、国際原油価格の下落を受けてエネルギー価格が下落したことに加え、生鮮品をはじめとする食料品価格

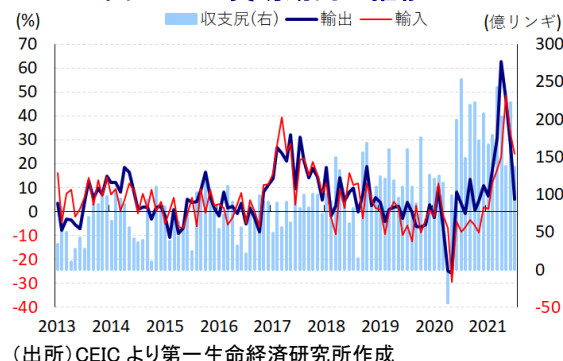
の上昇圧力が後退するなど、生活必需品の物価上昇圧力が後退したことが影響している。食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+0.66%と前月（同+0.75%）から伸びが鈍化しており、前月比も▲0.08%と前月（同+0.00%）から9ヶ月ぶりの下落に転じるなど、全般的にインフレ圧力が後退している。エネルギー価格の下落に伴う輸送コストの低下を反映して幅広く財価格に下押し圧力が掛かっていることに加え、変異株による新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染再拡大による行動制限の再強化の動きを反映してサービス物価にも下押し圧力が掛かるなど、全般的にインフレ圧力が後退している様子がうかがえる。

27日に発表された7月の輸出額は前年同月比+5.0%となり、前月（同+27.2%）から伸びが鈍化した。前月比も▲18.6%と前月（同+23.3%）から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きが続いているものの、中期的な基調は拡大傾向が続くなど底堅い動きがみられる。国・地域別では、景気回復が続く米国向けに堅調な動きがみられる一方、中国向けに大きく下押し圧力が掛かっているほか、新型コロナウイルスの感染再拡大の中心地となっているアジア新興国向けの鈍化も重石となっている。一方の輸入額は前年同月比+24.0%となり、前月（同+32.1%）から伸びが鈍化している。前月比も▲7.7%と前月（同+14.0%）から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きがみられる。感染再拡大を受けた行動制限の動きが需要の足かせとなっていることに加え、輸出の動きが一進一退の動きをみせていることも素材及び部材などに対する需要の重石になっているとみられる。結果、貿易収支は+136.83億リングと前月（+222.56億リング）から黒字幅が縮小している。

図4 MY インフレ率の推移



図5 MY 貿易動向の推移

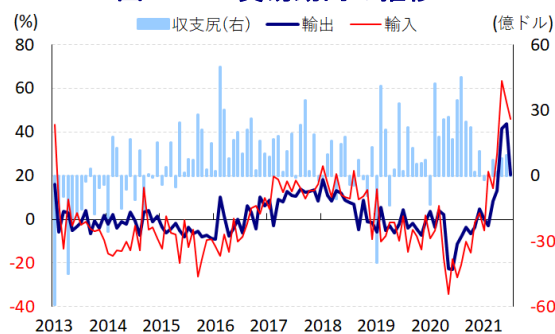


#### [タイ]～感染再拡大による行動制限再強化の影響を受け、輸出の動きは一進一退の展開が続いている～

23日に発表された7月の輸出額は前年同月比+20.27%となり、前月（同+43.82%）から伸びが鈍化した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。財別では、農産品関連のほか、国際商品市況の上昇を反映して鉱物資源関連の輸出額が押し上げられる一方、電気機械関連や自動車関連など主力の輸出財の輸出額に下押し圧力が掛かったことが重石となっている。変異株による新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染再拡大を受けた行動制限の再強化により、幅広い生産活動の足かせとなっていることが影響しているとみられる。一方の輸入額は前年同月比+45.95%となり、前月（同+53.75%）から伸びが鈍化した。前月比も3ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動き

に一服感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。原油をはじめとする国際商品市況の上昇を反映して燃料関連や資源関連の輸入額が押し上げられている一方、感染再拡大による行動制限の再強化の動きを受けて中間財や消費財関連の輸入額に下押し圧力が掛かったことが重石になっている。結果、貿易収支は+1.83 億ドルと前月 (+9.45 億ドル) から黒字幅が縮小している。

図 6 TH 貿易動向の推移

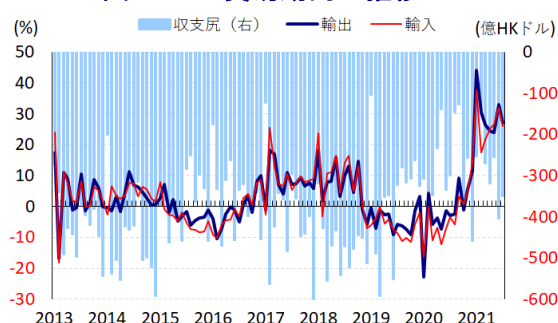


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

**[香港]～中国本土経済の減速懸念を反映して、輸出入双方で一進一退の動きが強まる動きが確認出来る～**

26日に発表された7月の輸出額は前年同月比+26.9%となり、前月(同+33.0%)から伸びが鈍化した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は拡大傾向が続くなど底堅く推移している。国・地域別では、欧米など主要国を中心とする世界経済の回復の動きを反映して米国やEU(欧州連合)、日本など先進国向けのほか、感染拡大の動きが一巡しつつあるインドなどアジア新興国向けに堅調な動きがみられる一方、中国本土経済の減速懸念を反映して中国本土向けの鈍化が全体の重石になっている。一方の輸入額は前年同月比+26.1%となり、前月(同+31.9%)から伸びが鈍化した。前月比も2ヶ月ぶりの減少に転じるなど輸出同様に一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。中国本土経済の減速に加え、原油をはじめとする国際商品市況の上昇一服の動きも影響して幅広い国及び地域からの輸入額が鈍化している。結果、貿易収支は▲349.82 億HKドルと前月(▲404.55 億HKドル)から赤字幅は縮小している。

図 7 HK 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。